

図 札幌駅交流拠点周辺の機能集積状況

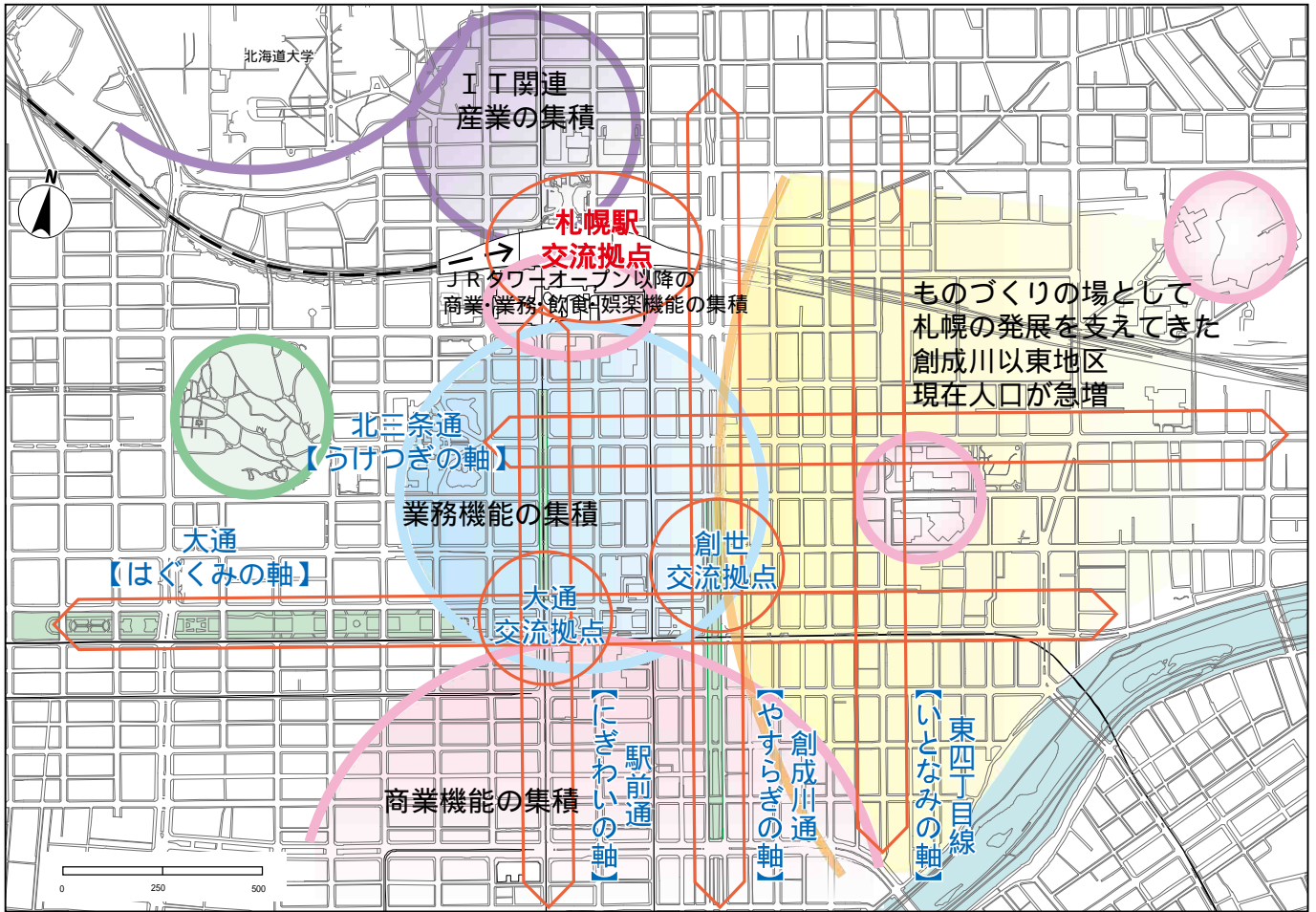
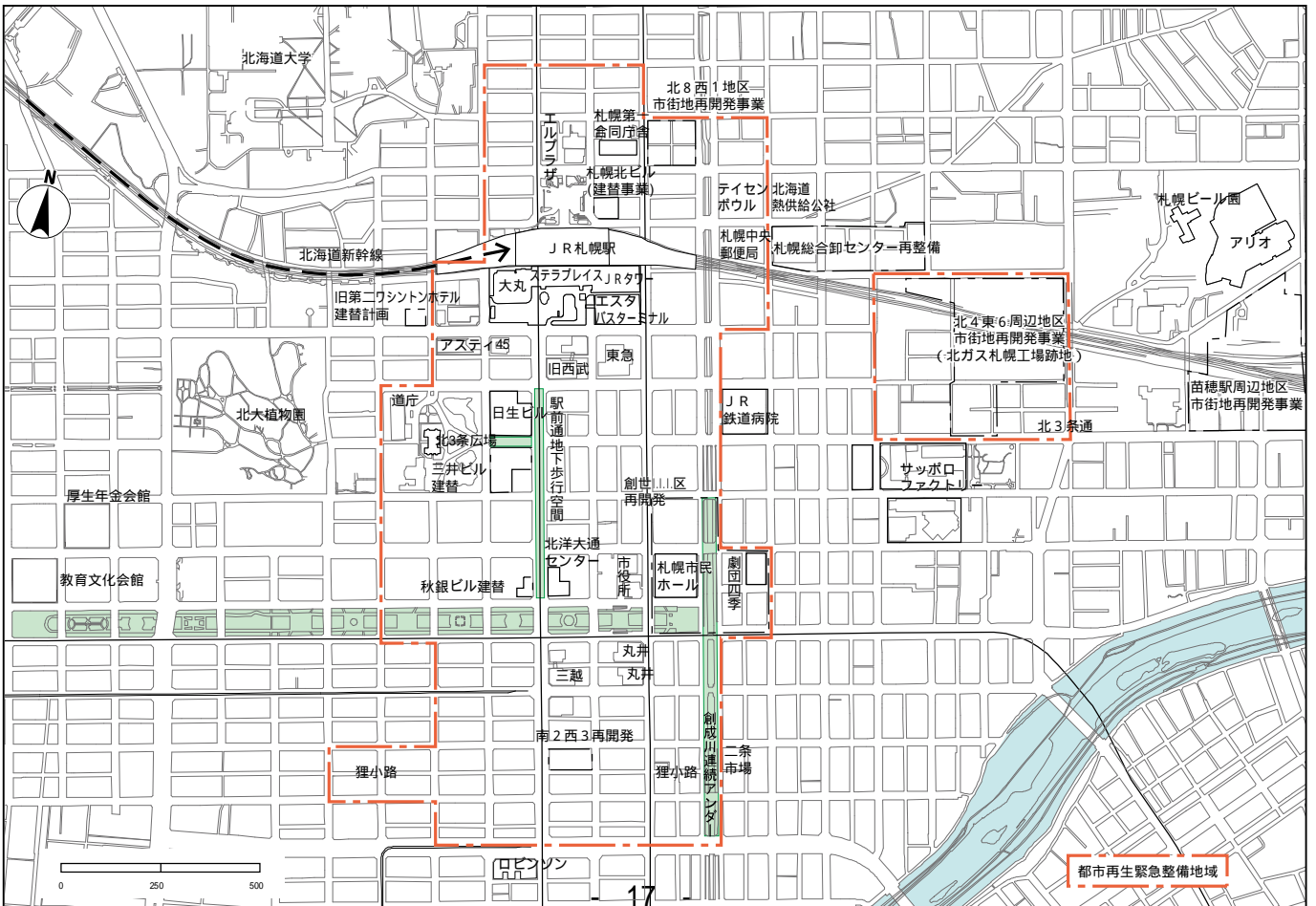


図 札幌駅交流拠点周辺の開発動向



## 【基本方針】

- ・札幌駅交流拠点においては、交通結節機能を発揮しながら、にぎわいの人波を都心へと送り出し、国際競争力を高める成長分野の産業を都心全体に波及させるため、次のような方針により機能導入を図る。

道都札幌の玄関口として、商業・業務等の高次都市機能や情報発信機能の更なる充実を図る。

札幌駅交流拠点周辺の開発動向や北海道大学に近接しているという優位性を生かし、札幌および北海道全体の自立化・活性化を牽引する新たな機能として「産業創造、人材育成機能」の導入を図る。

## 【具体的な取り組みイメージ】

### < 高次都市機能の充実 >

#### ( 短期的な取り組み )

- ・現在札幌駅交流拠点の周辺において再開発等の動きのある札幌総合卸センター、北8西1地区等において、商業・業務機能、居住機能等の都市機能の導入を図る。

### < 産業創造・人材育成機能の導入 >

#### ( 短期的な取り組み )

- ・北海道大学のシンクタンク・研究開発機能と連携した産学官による人材育成・支援機能など、「創造都市さっぽろ」を支えるIT産業の更なる充実を図る。
- ・北海道経済連合会が検討を進めている「北海道フード・クラスタータウン国際戦略総合特区(仮称)」の展開にあわせて、北海道の食に関する情報の受発信および今後必要とされるマーケティング機能の導入を図る。
- ・札幌を訪れる外国人や道内外の観光客に対して、誰もがわかりやすい観光インフォメーション機能の充実を図る。

#### ( 中長期的な取り組み )

- ・「環境首都・札幌」の実現を念頭に置き、今後北海道で成長が期待される環境・エネルギー分野において、例えば北4東6周辺地区の再開発等と連携した環境ソリューションビジネスを展開していくための産業創造・人材育成機能の導入を図る。
- ・今後北海道で成長が期待される観光分野において、例えば定山溪等の温泉地と連携したヘルスツーリズムなど、札幌のさまざまな資源を活用した新たな観光ビジネスの企画開発をおこなうシンクタンク機能の導入を図る。
- ・今後北海道で成長が期待される健康分野において、国の新健康フロンティア戦略<sup>3</sup>を見据えた新たな健康産業の展開や、今後の更なる少子高齢化の進展を踏まえた都心居住を支える医療・健康・福祉ビジネス等のインキュベータ機能、起業化促進・支援機能の導入を図る。

・このほか、札幌駅交流拠点を含む都心のエリアマネジメント活動の一環として、創成東アーバンヴィレッジ・ゾーンにおいては、低廉な貸し事務所や貸し店舗等で起業しやすい環境の形成を図るなど、地域の実情に合った取り組みを実践する。

例：二条市場周辺では食に関わるこだわりのレストラン、文化創造拠点の近傍では文化・芸術に関わるアトリエやオフィスなどがイメージできる。

### 3：新健康フロンティア戦略の趣旨（新健康フロンティア賢人会議）

国民の健康寿命の延伸に向け、国民自らがそれぞれの立場等に応じ、予防を重視した健康づくりを行うことを国民運動として展開するとともに、家庭の役割の見直しや地域コミュニティの強化、技術と提供体制の両面からのイノベーションを通じて、病気を患った人、障害のある人及び年をとった人も持っている能力をフルに活用して充実した人生を送ることができるよう支援する。

図 札幌駅交流拠点周辺の機能集積状況と開発動向からみる役割

